

# コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2024年1月27日

BMJ:

新型コロナでエッセンシャルワーカーが果たした役割を忘れたのか？

## 【松崎雑感】

「エッセンシャル」と言う言葉は広いです。直接医療に関連するだけでなく、医療システム全体を円滑に運営する仕事を受け持つ人々も含まれます。

BMJが、この様な論説を出した事は重要です。

パンデミックや災害に際して、緊急事態に対応する人々は現場だけでなく、背後でサポートする人々がいることが重要です。

目先の判断で「不要」としてコストカットされることが、最終的パフォーマンスを激減させる恐れがあります。

## 新型コロナでエッセンシャルワーカーが果たした役割を忘れたのか？

Brindley P. **Essential workers during covid-19: how quickly we forget.** *BMJ*. 2024;384:q179. Published 2024 Jan 25.  
doi:10.1136/bmj.q179

コロナパンデミックの間、多くのヒーローがいました。大多数は感染防止ガウンも、スクラブも着ていなかった。私たちは、私たちに食料を与え、水を与え、供給し、安全を確保してくれた人々を称える必要があります。

彼らはまさに社会に不可欠な「エッセンシャルワーカー」であり、私たち医療従事者とまったく同じでした。しかし、ある病院の給食サービスのスタッフ数人が、サービスが「外注」されたために「解雇」されたと聞いて、心を痛めました。

このコストカットは、お金の面だけがかが得るなら、理にかなっているでしょう。このコストカットにより病院は医療提供に集中でき、医療サービスをより多くの人々に提供でき、財政も改善するでしょう。

しかし、これらのエッセンシャルな役割を果たしてきたスタッフがいなければ、過去半世紀最大の医療危機を乗り越えることはできなかったでしょう。今は、もう彼らを必要としないのでしょうか？

私たちはすぐに手に入る食べ物に頼っていますが、今日では、病院、そして社会全体がコーヒーで進んでいます。われわれの病院のコーヒーショップは、私たちがほっとできる唯一の場所です。注文してからコーヒーがでてくるまでの間、私たちがつながり、ストレスを解消することができます。

アイデアが生まれ、意見の相違が解消され、緊張がほぐれる場所です。コーヒーは、疲れた人が夜勤に感謝し、誰もが一日の活力を得る方法です。救急部門が病院の心臓部（heart）であるならば、コーヒーショップは病院の魂（soul）です。

さらに、自分は、アウトソーシングに失業するわけがないと考えているなら、考え直してください。ハイテクヘルスケアを含むほぼすべての領域で厳しいコストカットがなされ、人工知能の導入が可能な業種は増加しつつあります。

これらは言い過ぎかもしれませんが、労働団体はしばしば1930年代のドイツ人牧師マルティン・ニーメラーの言葉を引用し、「ナチスが共産主義者を連れて行った時、私は黙っていた。共産主義者ではなかったからだ。社会民主主義者が締め出された時、私は黙っていた。社会民主主義者ではなかったからだ。労働組合員が連れて行かれた時、私は黙っていた。労働組合員ではなかったからだ。そして、彼らが私を追ってきた時、私のために声をあげる者は、もう誰一人残っていなかった」という彼の言葉を引用している。

コストカットの波が対岸に押し寄せている時に、関係ないとスルーすると、次は、あなたがコストカットの対象にされる恐れがあるかもしれません。その時に、それに抵抗する人は誰も残っていないでしょう。最初は病院のコーヒーショップの外注、そして、次はあなたの「外注」かもしれません。

この記述が心配しすぎと感じられるかもしれませんが、ポストコロナの労働環境は不確実で神経をすり減らすものであることに多くの人同意するでしょう。経済的余裕のある人の多くは辞めて次の仕事を探すのでしようが、福利厚生もほとんどない仕事に就いている人はどうすればよいのでしょうか？ パンデミック後の世界では、職場では、出勤しても評価されていないと感じた末の「静かな退職quiet quitting」と、職場環境があまりに悪いため労働者が退職をせざるを得ない「静かな解雇quiet firing」という2つの職場用語がすでに生まれています。

コストカット政策の末に失業する人々が増えることはともかく、働く人々の暮らしを守る必要があります。なぜなら、雇用は多くの人々の人生に意味を与え、多くのコミュニティに結束力を与えるからです。働くことが私たちの社会を円滑に進めるカギだからです。

さらに、食料安全保障、トラック輸送、老人ホームなど、多くの主要分野の労働力はすでに危険なほど不足しており、大量離職は社会の大きな後悔になる可能性があります。例えば、（この論説の著者はカナダです）カナダと言う比較的恵まれた国でさえも、国民の6人に1人がすでにかかりつけ医がおらず、10万人以上の看護師の欠員があり、麻酔科医がいないために手術がキャンセルされるのが日常的です。

パンデミックは、私たちに、本当に大事な人々は何か、何を大事にすべきかを見直す機会を与えてくれました。

しかし、今や、私たちは大事なことを忘れかけているのではありませんか。私たちは、社会がお互いを思いやるかどうかを試されました。床を掃除してくれたり、コーヒーを出してくれたり、バスを運転してくれたり、物資を運んでくれたりしてくれる人たちに感謝することを学ぶべきでした。

エッセンシャルワーカーは、コロナ禍で賞賛されるために働いてきたわけではありませんでした。しかし、今こそこれらの人々が、私たちに必要なのです。社会を支えている人たちを守りましょう。実を言うと、私たちすべてが解雇の対象になっているのです（After all, none of us is truly irreplaceable）。